防災連絡会議だより

２６号　（令和５年１１月１日）

発行　北斗市防災連絡会議

防災連絡会議　秋の陣「ふれあい福祉まつり in 北斗」に参上！

今年度はふれあい福祉まつりに防災連絡会議として、４ 年ぶりに参加致しました。４ 年前に初めて参加して以来、コロナ感染症の影響をうけて福祉まつり自体が開催出来ない状況が続きましたが、今年度、再開することが出来、防災連絡会議としても無事参加することが出来ました。

今年度は防災グッズの説明と展示、それに実演を取り入れての参加となりました。来場者の方々に熱心な説明を聞いて頂き、簡易トイレの実演や市の備蓄品であるアルファ化米の試食もあり、非常に有意義な時間となったと感じております。

アルファ化米などは、災害時の備蓄品ですが、味のほうもかなり美味しく出来ており、試食した方からは、かなり好評だったと思います。

防災グッズなどに対するネガティブなイメージやハードルをなくして行き、日常生活の中に少しずつ取り入れてくれる機会となっていただければ幸いです。

今後もこのような機会を利用して防災意識を高めていければと思います。　　栃木正則さん(総務部長)

『ふれあい福祉まつりin北斗』に参加して　　＜石松 天さん＞

この行事前に，上野代表から「新しい会員の意見を聞かせてほしい」ということで，高齢者センターで代表を含め５人で話をしました。今までは展示を中心にやっていたがテーマを絞って取り組んでみたいということで，９月１０日に行われた『防災フェスティバル』を見て，展示だけでは伝わらないので実際に体験してもらってはどうかということで，避難所にいったら行われる「段ボールベッドの作成」,「非常食を作っての試食」,「非常用トイレの排せつ物処理」の３点でやってみようということになりました。

前日１９日の夕方に準備に行くと，会場となる会議室の中は，家具倒壊予防の予防グッズや非常持ち出し袋がたくさん並べられ，さらに，講話をするということで椅子とテーブルが並べられていました。以前の会議で考えていた様子とは異なっていたので，できるのだろうかと思いました。当日は，非常食の試食とアルファ化米の説明を担当しましたので，会場に行ってからお湯を沸かし準備をしました。１回目の講話が１０時半からということでしたが，チラホラとお客さんが入ってきたので，座ってもらい試食をしてもらいながらアルファ化米の説明をしました。１０時半になり各担当の講話が始まりました。４つの講話を全部聞かれたお客さんはいなかったようです。その後もチラホラとお客さんが入ってきたので試食と米の説明をしましたが，それぞれの担当の方々もその場で説明をしていました。その説明の形を自分では想定していたので，たくさんの人に伝えられお客さんにも負担なく伝わったのではないかと思います。

終わってみて感じたことは，連絡会議側からはたくさんのことを伝えたいと思うのでしょうが，一度に伝えることは難しいので内容を絞ること，会場のスペースからお客さんの動線を考えた配置をすること，そしてお客さんがどんなシチュエーションで来ているのかを考えて内容を決めることだと思います。そして一番思うことは，集まれる会員での会議を経て決定して開催することで偏った人に負担することなく，何回か何年かの見通しをもって開催することで市民の皆さんに防災と実践の意識をもってもらえればと思います。

ほくと防災マルシェと福祉まつりで示された新たな道！

昨年はハンドブック改訂作業やそれに関連する作業に多くの時間をかけましたが、今年はハンドブックをもとに、会員を中心に防災学習会や避難訓練が町内会で行われています。こうした基本的な活動以外に新たな活動として、町内会、企業、商店会などと連携し、町づくりとつながる活動が、浜分地区、飯生・常盤地区でも展開されています。また、福祉まつりについて数回の会議を開き、今までの展示方法を見直し、説明と実演を結び付け、参加者全員で講師を分担して進行することにしました。アルファ化米の試食が人気のため、講座方式から各ブースでの説明に変更となりましたが、福祉まつりの企画は町内会で開催される学習会などでのお手本になるものと思っていますし、防災連絡会議の新たな財産の一つになったと思っています。防災マルシェや福祉まつりでは 10 名以上の会員の方々のご協力・ご支援をいただいています。お礼申し上げます。

ほくと防災マルシェの展示

上野廣幸（代表）

多くの防災連絡会議の会員も参加した植樹祭・・きじひき高原入口の「クマに注意」の看板を見て、びくびくしながら坂道を上る。駐車場の係の方を見てホッとする。池田市長は植樹祭の挨拶で「北斗市ゼロカーボンシティ宣言（9 月 8 日）」に触れ、2050 年までに温室効果ガス排出量実質ゼロにするカーボンニュートラルを目指し、今後とも省エネ、森林や海洋環境の保全を促進し、温室効果ガス削減等に取り組むと述べている。防災活動をしていて感じるのは、池田市長が述べたように根本的な課題である環境問題に取り組まなければならないということであり、地域において、各家庭でできることを実践し、自治体や国には脱炭素に向けたエネルギーの転換が求められていると思う。

☆☆★避難所運営ゲーム北海道版（Ｄｏはぐ）講師養成研修会開催のお知らせ

令和５年１１月１９日（日）１３：００～１６：３０、渡島総合振興局 ３階 西棟 講堂

※参加を希望される方は事務局にお問い合わせください。申し込み締め切りは 11 月７日。

なお、参加される方は、各自で会場にお越しください。

事務局　　北斗市総務部総務課交通防災係

電話 73－3111（内線 212～２１４）　　メール bosai@city.hokuto.hokkaido.jp